

★「社会主義を守って/デモ申請を却下した キューバ当局の決定について

<https://www.thecanadafiles.com/articles/in-defence-of-socialism-on-the-cuban-authorities-decision-to-prohibit-marches>

米国の主流メディアとデモ申請者たちは、「社会主義の防衛」はデモ許可の前提条件であってはならないと抗議して独善的な主張をしているが。

[アーノルド・アウグスト \(The Canada files\)](#)

20/10/2021

7月11-12日の抗議行動の後、同じ反体制派グループが11月15日にキューバ全土のいくつかの都市で同時にデモ行進を行う許可を申請した。これに対し、地方自治体当局(例えば旧ハバナ)は、「申請者がデモの法的根拠として言及している憲法第56条は、デモの権利の行使の要件」として「公的秩序を尊重し、法律で定めた規則に従うと規定している」と指摘している。

言い換えれば、デモの申請者は、第56条を引いて、抽象的に「平和的にデモする権利」の部分だけをとりだしている。デモをよびかけているグループ「アーキピエラゴ」のHPに掲載された要求が明らかなように、彼らは「第2段階のカラー

革命」の先頭にたっているのだ。彼らは 54 条のうちの、「公共秩序の尊重と法律が定めるルールの順守」という規制の部分を無視している。申請者たちは、キューバのどの法律にふれているのか。自治体当局の決定は、「憲法第 4 条は、この憲法によって承認された社会主義システムは取り消しができないと定義しているので、それに対して行使されたいかなる行動も違法である」と説明している。

対照的な米国とキューバの憲法上の権利

米国の主流メディアとデモ申請を拒否されたキューバの人々は、社会主義の防衛がデモ実施の前提条件であってはならないと抗議する独善的な声明をだしている。彼らは、これらの権利にはいかなる制限も加えられることは許せないと怒っているのだ。その理由は何か。彼らは、米国憲法に見られるように、抽象的に「表現の自由」と「集会・結社の権利」という米国中心の概念に染まっているのだろうか。検討してみよう。合衆国憲法修正第 1 条は、以下を規定している。

「議会は、国教の樹立を支援する法律を立てることも、宗教の自由行使を禁じることもできない。表現の自由、あるいは報道の自由を制限することや、

人々の平和的集会の権利、政府に苦情救済のために請願する権利を制限することもできない」

キューバの憲法とは異なり、合衆国憲法には、資本主義システムの防衛に関する明示的な言及はない。何らかの言及があるという人がいるかもしれない。たとえば前文には、「われら合衆国の人民は、より完全な連邦を形成し、正義を樹立し、国内の平穏を保障し、・・・」とある。最後の部分は、資本主義の現状を転覆したり挑戦したりすることは許されないというようにもとれる。米国の歴史全体をみれば、先住民やアフリカ系アメリカ人、労働者階級、資本主義と帝国主義に対抗する若者の挑戦はずっと抑圧されてきた。「国内の平穏」が資本主義を平和に運営する権利を意味するかどうかの判断は別にしても、結論は明らかだ。実際には、白人至上主義の米国のエリートにとって、言論の自由と集会の権利が容認されるのは、資本主義と帝国主義の現状に挑戦しない限りにおいてなのだ。

対照的に、キューバの憲法と政治システムは率直で正直だ。「社会主義システムを守るために確立したレッドラインはこえてはならない」と規定している。表現と集会結社の自由に対するこの制限は何に由来するのか。

地元当局は決定について詳しく述べている。「共和国憲法は幅広い討論を経て、国民投票で有権者の 86.85%の支持で承認された。圧倒的多数が自由な主権の行使として、社会主義システムとその不可逆性、そして確立された政治、社会、経済秩序を転覆しようとする企てにはあらゆる手段でたたかう権利を選択したのだ」

共産主義：彼らは列車に乗り遅れた

この憲法上の結論に達するまでのプロセスは、長く複雑だったが、特徴は大衆の関与と貢献が相当あったことである。最初の草案は、2018 年に全キューバが参照できるようになった。何ヶ月もかけて人々は文書を読み、合計 780 の意見と 9,600 の提案がおこなわれ、その多くは最終草案に取り入れられて公開された。

今回のデモを申請した主要な団体の一つ、ラ・ウニオン・パトリオティカ・デ・キューバ(UNPACU)は 7 月 11-12 日の抗議行動にも関与したが、2019 年 2 月 14 日の憲法採択のための国民投票では、「大規模で響き渡るようなノーを」と呼びかけていた。しかし、結果はどうだったか。

投票率:有権者の 84.4%。

イエス:86.85%。

ノー:9.0%

白票および無効: 4.5%。

だった。

ノーの明確な拒否を意味しただけではない。投票率は、2018 年の前回総選挙の 82・9%と比べても増加した。国民投票にたいする国民の熱意は、新憲法に社会主義を掲げ、その目標を拡大したいという願いの表れとみることができる。大衆討議にふされた最初の草案には、最終目標としての共産主義はもろこまれなかった。しかし、革命的なブログやジャーナリストたちは、これを省略することに異議を唱えた。筆者は当時ハバナにいて、共産主義を入れるべきか入れないかで、人々が近所やテレビで活発な議論をするのをこの目で見た。ラ・ウニオン・パトリオティカ・デ・キューバ(UNPACU)と 7 月 11-12 日の集会を呼び掛けた他の野党グループは、7 月当時も今も、「共産主義打倒」を呼び掛けている。彼らはすでに、草の根レベルでの議論を通じて、憲法に盛り込まれている

共産主義に反対して有権者を揺さぶったのだ。できるだけはっきりと指摘されなければならないことは、彼らはそれを行い、列車に乗りそこなったのだ。

ノーの訴えが不首尾だったので、彼らは「国民投票は不正だった」と主張した。

しかし、筆者は 1997-98 年にキューバの選挙のすべての段階に参加したが、不正の証拠はまったくなかった。2010 年にも別の調査でもこのことは確認されている。

論より証拠

ハバナの地方議会はその決定で次のようにのべている。

「デモを計画し推進する人たちは、そのなかには米国政府が資金を提供する破壊的な組織や機関とのつながりをもつ人もいるが、キューバの政治システムの変更を促進するという明白な意図を持っている。これによって確認できることは、国内の他地域で同時に計画されているデモは、他の国でリハーサルされたキューバの体制転換戦略の一環であり、挑発であるということである。デモの計画が発表されるとすぐに、行進はキューバ国民に行動をけしかけて国を不安定化さ

せ軍事介入をたくらんでいる米国の議員や官僚、メディアからの公然と支持をうけた」

これは全くのこじつけなのだろうか。例えば、ハバナの CNN 記者は、デモの主催者に平和的な顔を見せかけようとするあまり、ジャーナリズムの完全性を簡単に破ってしまった。彼は事実に基づくキューバ政府の決定の真実性に挑戦して、「キューバ政府当局者は、来月の**平和的な抗議行動**を行う要求は認められないことを明らかにしている」と報道した。語るに落ちるとはこのことで、まさに外国メディアがキューバ人を行動に駆り立てているということを証明している。

「論より証拠」の格言を示しているのは彼だけではない。

市当局は書いている、「デモ計画が発表されるとすぐに、米国の議員、官僚と国民からの支持をうけた」。不許可の決定が 10 月 12 日にできると、米務省のプライス報道官はデモへの支持を表明した後、次のようにのべた。

質問: 11 月 15 日に計画されていた抗議行動を禁止したキューバ政府の決定についてお聞きします。キューバ政府は、主催者が政権転覆のために米国の支援を受けていると主張していますが、あなたは何かコメントがありますか」

プライス報道官:最初に一つ明確にさせてください。7月とその後の数週間におこったことは、米国ではなく、キューバ政権の行動についてあり、自由、尊厳、繁栄に対するキューバ国民の満たされていない願望、それが1959年以来、この政権によって否定されてきたことについてでした。

プライス報道官はポーカーフェイスで米国の関与を否定したが、国務省が破壊的な要素のメガホンであることを自分から明らかにしてしまった。彼は「我々は、ハバナの政府に対し、キューバ国民の基本的自由と基本的権利を尊重するよう求める」とのべたのだ。

10月12日、マイアミ・ヘラルド紙は、キューバから今回のデモ申請につながる記者会見について報道し、要請をだした人物を特集しているが、ここからは事態がすけてみえる。

第一に、同紙は「7月11日、何百人ものキューバ人が**政権交代**を求めて街頭にでた」と回顧したが、それこそまさに自治体当局がデモを不許可にした理由なのだ。

第二に、マイアミに拠点を置く同紙は、デモ申請者の次の言葉を引用している。「当局はいつも米国による『封鎖』に不平を言う」が「キューバ市民に対する内部封鎖ほど悪い封鎖はありません」。これは、彼らの意図についての決定的証拠である。彼らには国はないのも同然なのだ。

第三に、申請者たちの政治的洞察力を賞賛しなければならない。彼らは、米国とカナダの左翼のなかに橋頭堡を築いたことにき気が付き、さらに進みたいと思っている。マイアミ・ヘラルド紙は、彼らの一人の言葉を引用している。

「世界中の左翼は、通常は共犯者なのに偽善的な振る舞いをしている。私は彼らによびかけている。独裁政権に右も左もない。よい悪いもない。政治の看板がどうであれ、すべてに反対しなければならない」。

対照的なメディアもある。例えば、[米国の独立系監視メディア組織 intPress News](#) とカナダの反帝国主義社会主義者カナダファイルだ。彼らは、キューバについて節を曲げ、7月11日の「カラー革命」の企てに拍手を送った左翼に反撃している。

さらなる企てに直面して、彼らは教訓を引き出すだろうか。

(了)

筆者のアーノルド・アウグストはカナダのジャーナリスト

【翻訳 田中靖宏】(原文は)

<https://www.thecanadafiles.com/articles/in-defence-of-socialism-on-the-cuban-authorities-decision-to-prohibit-marches>

(以下の動画も参考になります)

[Arnold August: Canadian "left" media & government support colour revolution narratives against Cuba - YouTube](#)